

■長万部高校のミッション（使命・存在意義）

「地域の期待に応える長万部高等学校」

【学校教育目標】

〇しなやかにたくましく社会を生き抜く、人としての力を育む

1 学校教育目標実現のための重点目標

- (1) 常に前向きで何事にも粘り強く取り組む力を養う。
(2) 多くのことに疑問を持ち考え抜く力を養う。
(3) 自らの正しい判断をする力と他を思いやる心を養う。

2 目指す生徒像

- 明朗快活で何事にも積極的に学校生活が送れる生徒
○ 自らが進路実現に向けて目標設定し地道に努力する生徒
○ 自分の言動に責任を持ち、自己管理ができる生徒
○ 集団生活におけるルール・マナー・時間を守る生徒
○ 他者への思いやりを大切にできる生徒

3 目指す学校像

- 生徒、保護者、地域から信頼される学校
○ 生徒の進路実現に応える学校
○ 生徒が自ら学び、探究心に溢れる学校
○ 人としてあるべき姿を追求する学校

4 自己評価結果

取組 【A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である】

達成 【A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である】

A (4.0～3.25)、B (3.24～2.5)、C (2.49～1.75)、D (1.74～1.0) ※A=4 B=3 C=2 D=1で換算

5 学校関係者評価

評価の適切さ・取組の適切さ共に A (4.0～3.25)、B (3.24～2.5)、C (2.49～1.75)、D (1.74～1.0) ※A=4 B=3 C=2 D=1で換算

評価基準

【自己評価の適切さ】

- A 適切な評価である
B ほぼ適切な評価である
C やや不適切な評価である
D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さ】

- A 十分な効果が期待できる
B ほぼ十分な効果が期待できる
C あまり効果が期待できない
D 全く効果は期待できない



領域	重点事項	自己評価において達成状況評価にC,Dの回答をした人数が25%以上の課題項目)		自己評価		改善・充実の方策	学校関係者評価		
		今年度の目標	目標達成のための評価の観点	取組の適切さ	達成状況		自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	
教育活動	確かな学力の育成	1. 学力の底上げを図る	①学力差に対応した指導の工夫を図ったか	B 3.09	B 2.91	①⑤アクティブラーニングの視点からの授業改善に係る授業研究、校内研修を推進し、授業アンケート等により生徒の主体性、協働性の向上についての検証を進める。 ②③④個別の興味・関心、能力に応じた学習を計画し、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにする。知識・技能に偏らない、学力の観点に応じた評価方法とその意義、生徒自身による自己評価の活用等について評価者が研鑽するとともに、指導と評価の一体化を意識した授業実践に努める。 「総合的な探究の時間」と教科との学習が横断的につながりを持てるような視点を持ち指導にあたる。	B 3.0	B 3.2	
		2. 主体的な学習姿勢や意欲の醸成を図る	②シラバスの活用や進路希望との関連を図ったか	A 3.27	B 3.18		A 3.6	A 3.4	
		3. 主体的・対話的で深い学びの実践に努め、授業の更なる工夫・改善を図る	③生徒を引きつける授業展開を意識したか	A 3.36	B 3.00		A 3.6	A 3.4	
			④観点別に生徒の学習状況を把握したか	A 3.27	B 3.18		A 3.6	A 3.4	
			⑤主体的・対話的で深い学びや言語活動を重視し、わかる喜びを体感させたか	B 3.09	B 2.73		B 3.0	B 3.0	
			「自己評価の適切さ」については当人達を信じ全て同じにします。						
	学校関係者の意見								
	豊かな心の育成	1. 規律、社会常識を遵守する心を育成し、交通安全・ネットマナーを徹底する	①基本的な生活習慣やマナー指導が徹底できたか	B 3.00	B 2.64	①②身だしなみ指導については、今後も規則の存在する理由をしっかりと理解させ、生徒・保護者の理解を促すとともに、組織的な指導を継続する。特に授業規律については、教員間で指導方法について再確認し、指導にぶれが出ないようにしていく。 ③今後も地域と連携・協働した行事を継続し、小規模校でも、生徒が満足し、地域を活性化する行事の計画・実施に努める。 ④いじめ防止基本方針を周知徹底するとともに、望ましい人間関係の在り方について生徒自身が考える機会を設ける。また、生徒との対話の機会を増やし、嫌がらせも含めたいじめの早期発見に努める。 ⑤特別な支援を必要とする生徒の見極めを客観的に行うとともに、個別の生徒理解に係る研修会等を実施して、多様性の理解に基づく、組織としての教育相談、生徒指導を推進する。	B 3.0	B 3.0	
		2. 自主性・協調性・思いやりの心を醸成する	②その場その場の臨場指導ができたか	B 2.73	B 2.55		B 3.0	B 3.0	
		3. 学年、教科の枠を越えた生徒指導を実践する	③交通安全指導、ネットマナー指導は徹底できたか	A 3.27	A 3.27		A 3.8	A 3.8	
			④生徒のサインや変化を見逃さず、いじめ等の未然防止が図れたか	A 3.36	A 3.45		A 3.8	A 3.8	
			⑤情報を共有し、委員会、分掌、学年の連携・共通実践はできたか	A 3.55	A 3.55		A 3.8	A 3.8	
			学校関係者の意見						
	進路指導	1.進路意識の早期醸成と望ましい職業観・勤労観の育成	①目標を明確にして計画的な進路指導ができたか	B 3.09	B 2.91	①今後も全教職員の協力により、全体構造図を意識した進路指導事業を計画的に実施する。進学希望者へは個別の希望に応じ、少人数指導や進学講習等、適切な学習指導を計画し、実行するよう努める。就職希望者には個別の希望と適性に応じた就職活動への効果的な支援を行うとともに、正規就労意識の向上に向けた、啓発、個別相談等の充実にも努める。 ②町研サークル等での交流を通し、小中高で有効に活用できるキャリアパスポートの改善に努める。 ③家庭訪問、日常の連絡相談等により、家庭と連携し生徒の進路活動支援を充実させていく。 ④今後も生徒の希望に応じ、進路面談・進学講習・インターンシップ等、進路指導を計画し実行していく。特に、就職希望者には個別の希望と適性に応じた就職活動への効果的な支援を行うとともに、正規就労者意識の向上に向けた啓発や個別相談等の充実にも努める。 ⑤今後も資格の有用性と挑戦することの大切さを啓発しながら、資格取得希望者を全力でサポートしていく。	B 3.0	B 3.2	
		2.適正な自己理解と進路目標の明確化	②中高で連携した「キャリアパスポート」は有効活用できたか	B 2.55	B 2.55		B 3.0	B 3.2	
		3.3年間を見通した組織的・計画的な進路指導の展開	③保護者への情報提供は充実していたか	A 3.30	A 3.30		A 3.8	A 3.8	
			④個人面談・三者面談を効果的に行ったか	A 3.40	A 3.40		A 3.8	A 3.8	
			⑤資格取得・講習等は適切に推進できたか	B 3.18	B 3.18		B 3.0	B 3.2	
学校関係者の意見									

領域	重点事項	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	自己評価		改善・充実の方策	学校関係者評価		
				取組の適切さ	達成状況		自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	
教育活動	健康安全指導	1. 安全で安心な学習環境の確保	①実践的な健康教育・安全教育により生命尊重の精神が育成できたか	A 3.27	A 3.27	①生徒理解を基本とした生徒指導のために、カウンセリングやコーチングに係る研修への参加促進に努める。保健の授業やほげんだより、健康安全に係る外部講師の活用等により、自らの健康管理に係る意識の向上に努める。 ②今後もスクールカウンセラーやパートナーティーチャーなど外部機関との連携を継続し、生徒理解に努める。 ③特別な支援を必要とする生徒の見極めを客観的に行うとともに、個別な対応が必要な生徒に対し就学支援委員会等で方策を立て全教職員で指導にあたる体制を構築する。	A 3.8	A 3.8	
		2. 心身の自己管理能力の向上	②SCや専門機関、保護者と連携した生徒支援はできたか	A 3.45	A 3.45		A 3.8	A 3.8	
3. 教育相談機能の充実		③就学支援委員会、学年、分掌が情報を共有し、健康安全面の連携・実践はできたか	A 3.45	A 3.45	A 3.8		A 3.8		
		学校関係者の意見							
学校運営	信頼される学校づくり	1. 保護者・地域との密接な連携による教育活動の推進	①生徒の取り組みや学習成果などの広報活動は充実していたか	A 3.33	A 3.33	①学校便りやwebページで行事や学校の様子を掲載するとともに、町の広報や新聞等の報道にも積極的に教育活動が掲載されるように働きかけ、地域内外に本校の教育活動を発信していく。また、今後とも小中学校とも連携した広報活動を推進する。 ②今後も地域の人的・物的資源を活用し、地域とのつながりを大切にしながら生徒のためになる教育活動の実施に努める。 ③地域との連携行事は引き続き継続し、地域に対して積極的に貢献する。また、小中高合同発表会等で異校種間連携を行うことで小中の児童生徒の手本となるので、今後も生徒間連携についても推進していく。 ④今年度より学校便りや保護者宛文書等を楽メ(メール配信サービス)を通じて配布することとした。そのため、保護者に早く確実に届くことになったので、今後とも活用していく。	A 4.0	A 4.0	
		2. 適切な情報の受発信と関係機関との連携強化	②地域の教育資源や人材活用ができたか	A 3.50	A 3.50		A 4.0	A 4.0	
		3. 地域貢献等の積極的推進	③各種の地域貢献は推進できたか	A 3.33	A 3.25		A 4.0	A 4.0	
			④保護者の学校行事への参加やPTA活動の活性化はなされたか	B 2.83	B 2.83		B 3.0	B 3.2	
			学校関係者の意見						
	教職員の資質向上	1. 効果的・実践的な自己研修、校内研修の充実	①公開授業、校内研修会を計画的に実施して資質向上に努めたか	A 3.25	B 3.00	①教員の研究会等への参加は積極的であり、校内においても適宜、適切な研修が行われている。研修時間の確保が課題であり、タイムマネジメントと業務改善に努める。 ②設定した公開授業だけでなく、授業改善のために積極的に他の教科の授業を見学するよう啓発する。 ③新しい時代に求められる資質・能力を理解し、自己目標を設定し日々研鑽に励む姿勢を持つように努める。 ④日常の継続的な啓発に努め、事例等を具体的に情報として提供し、事例研究を行うことで不祥事の未然防止に努める。	A 3.8	A 3.4	
		2. 公開授業の充実	②授業改善につながる充実した公開授業がなされたか	B 3.08	B 2.83		B 3.2	B 3.2	
		3. 服務規律の遵守、心身の健康管理	③自己目標を適正に定めて、達成に向けて取り組んだか	A 3.50	A 3.25		A 3.8	A 3.6	
			④教育公務員としての自覚を持ち、服務規律の遵守に努めたか	A 3.58	A 3.67		A 3.8	A 3.6	
			学校関係者の意見						
	組織運営	1. 目指す学校像・生徒像を共有した教育活動の推進	①PDCAサイクルによる活力のある教育活動は推進できたか	B 3.08	B 3.08	①協働体制は良好であり、時間外勤務縮減に関しても改善が進んできている。今後もPDCAサイクルを意識した教育活動に努める。 ②今後も教職員同士が個性を理解し合い、相互に支援し合う体制づくりに努める。また、日常的な相談や会話ができる時間的、精神的なゆとりの確保に努める。 ③行事ごとの事後アンケート等で改善点を明確にし、行事等の作業の精選に努める。	B 3.0	B 3.0	
		2. 教職員が一丸となった学校経営と協働体制の確立	②部長・主任のリーダーシップによる校務の推進は図れたか	A 3.25	A 3.25		A 3.8	A 3.8	
			③事業、行事ごとの評価、課題や改善点の明確化は図れたか	A 3.33	A 3.33		A 3.8	A 3.8	
		学校関係者の意見							

5 自由記載欄

・日頃の学校生活を拝見していない私の評価はDです。学力、進路関係は日々の真剣に取り組んでおられる管理職や教職員に申し上げることはないのですが、1つ気になるのは授業態度。クラス全体が悪いムードに流されているのかと思いました。生徒のアンケートを見ると真剣に学ぼうとする生徒からたくさんのSOSが発信されているのが救われます。義務教育ではないので、学ぼうとしている者に対し授業を妨害する者は迷わず退学等切り捨ても大事だと思います。もちろんその方針は事前に生徒・親に十分な説明が必要ですが。

・コロナにより保護者、地域関係者と学校に行く為の行事等ができなくなっていると思いますので、こまめに生徒を通して保護者に対しての今学校では何が行われているか、何をしているのかを伝えてもらいたい。そのための小中高合同発表会等は良かったと思います。新聞、報道等を通して学校活動を紹介してください。できるだけ協力します。

・評議員として十分な活動ができなかったことを反省しています。今後は学校側からの情報を共有して長万部高校が魅力ある高校になって、持続可能な学校になることを推進します。